

地域のトピックス・西蒲区の魅力発信

10/14

幸せ見つかる 恋メグリin西蒲区

越前浜で素敵に出会う
恋メグリさんぽっ

西蒲区人口減少対策として、越前浜地区を舞台に男性十五名、女性八名の方から参加いただきました。当日は、角田地区コミュニティセンターの広場で、男女各一列に並んで「趣味は〇〇です」「特技は〇〇です」など自己紹介を行った後、秋晴れの中、少し緊張した面持ちで越前浜地区を三組に分かれて散策しました。歴史探訪、お洒落なお店の散策や染物体験等を通じて、後半はお互いの距離も縮まり、笑顔で会話が弾んでいました。



その後、会場をカーブドット薪小屋に移し、おいしい食事とワイン、ビールを味わいながら、チーム対抗による「浜メグリに関するクイズ」を行いながら楽しいひと時を過ごしました。その後、意中の相手の名前を記入したシートを基にマッチングを行い、区外の人も含め、見事に四組もの素敵なカップルが誕生しました。素晴らしい出会いをされた皆さんが、これをきっかけに、自然豊かな西蒲区で暮らしてみようと思っただけであればと願っています。



12/10

地域ミーティングin西蒲区

人口減少を踏まえた地域づくり

当日、市長から新潟市及び西蒲区における人口動向についての説明があり、出席者と意見交換を行いました。併せて、空き家活用による転入者増加に向けた越前浜自治会の取り組みについての説明がありましたので、実際に自治協委員が地元の関係者へお話を伺いました。

『子どもは地域の宝』

角田山、日本海、美しい夕日、人も羨む自然環境。田舎暮らしとはいえ、生活をしていくには大変良い所です。

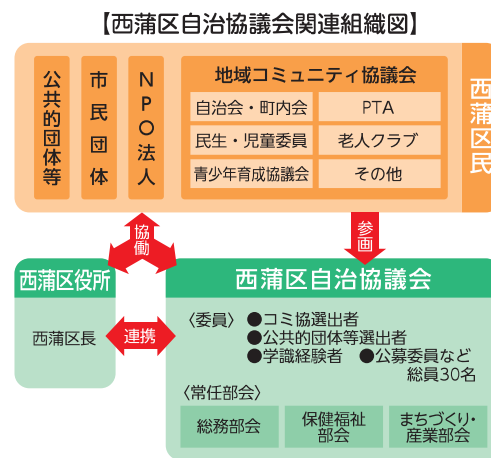
しかし、働くために若い人が地域から出て行くと、人口が減り、それに伴い子どもも少なくなり、小学校の存続も心配になってきました。「子どもは地域の宝である」「学校をなくすことはできない」「地域を豊かにし、学校を守る」とみんな考えてきました。幸い、越前浜や角田には古民家や土地があります。古民家の宣伝をし、土地を整備し、人々を呼び、産業を呼び、いろいろなイベントも行いました。その結果、人口を増やすことができました。

子どもたちの声が聞こえる。朝に「おはようございませ」と登校していく子どもたちの姿は微笑ましいです。これからも地域の発展をコミ協全体で取り組んでいくことで、地域を豊かにしていきたいと角田の阿部さん、越前浜の小川さんは語って下さいました。



区自治協議会Q&A

- Q1. 時々「ジチキョウ」って聞くけど、なんのこと？
- A1. 新潟市各区に設けられている区自治協議会のことだよ。
- Q2. そこで何をしてるの？
- A2. まちづくりやその他の課題について、地域の事は地域で考え、責任をもって取り組むという住民自治の考えで、住民と市との橋渡しの役割を果たすことを目指しているんだ。ちなみに会議は月一回程度で開かれていて、傍聴もできるよ！
- Q3. わたしたちが分かる活動でいうとどんなことをしてるの？
- A3. 婚活パーティーの開催やお年寄りなどに見守りキーホルダーを配布したり、そうそう、去年は子どもたちから提案された夢を実現しようとして、角田の灯台から流しソーメンなど楽しいイベントもしたよ。



編集後記

「じちきょう」第8号は、鈴木区長へのインタビューを第一面に特集しました。バイタリティーに富んだ区長の、西蒲区行政に対する意気込みが伝われば幸いです。

区自治協議会で取り上げて欲しい地域課題や、日常生活で、何か「ホッと」するような出来事、写真、創作作品などがありましたら、タイトルなどを添えて事務局（広報紙第一面に掲載）まで、住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、郵送または電子メールにてお送りください。今後とも、読んでもらえる広報紙を目指して、部会員一同取り組んでいきたいと思っております。

インタビュー INTERVIEW

鈴木 浩行 西蒲区長

この4月に就任1年を迎える鈴木西蒲区長に自治協委員がインタビューしました！



前職から西蒲区長という立場になり、職責上の意識はどのように変化しましたか？

◆区長になる前は、海外の友好都市との交流に関する仕事を、その前は日中韓の三都市の相互交流の仕事をしておりました。区長の仕事は広範な分野を扱うため、非常に責任の重さを感じています。

◆私が一番心がけていることは、現場第一に仕事をしていくということだと思います。とにかく自分の足で出向き、自分の目で見て自分で考え、感じて対話をさせていただき、前職よりも五感をフル活用するような形で仕事をしようと思っております。

◆西蒲区を背負うという重い責任があるので、判断する際には様々な法令や背景等を総合的に考慮していくことを心がけています。



#現場第一

プロフィール ~Profile~

血液型	O型
星座	おひつじ座
好きな有名人	トム・ハンクス ジョン・レノン エリック・クラプトン Char
好きな食べ物	寿司
趣味	ギター(プロを目指して音楽活動をしていた時期もありました!)



題字 小林 真由美

[第8号]

平成30年3月15日発行
発行 西蒲区自治協議会
編集 西蒲区自治協議会広報部会
事務局 西蒲区役所地域課
〒953-8666 西蒲区巻甲2690番地1
TEL 0256-72-8156
FAX 0256-72-6022
E-mail chiiki.nsk@city.niigata.lg.jp



就任約一年を迎えて、どのような感想をお持ちですか？

◆元々、西蒲区ファンでしたが、約一年仕事をして大ファンになりました。人との繋がりが、支え合う気持ちで非常に強い地域だと改めて感じました。課題もありますが、やりがいがあるのですね。できれば退職までここで仕事をしたいと思っています。



いつも変わらない笑顔の源はどこにありますか？

◆両親のDNAかなと思います。父はあまり喋る人ではなく、ゴミ置き場の清掃など、あまり人がしないことをニコニコしながらしていました。母は保育士で、とても忙しそうでしたが、パワフルで愚痴も言わず、いつも笑顔でした。



「ホッと」一息つけるのはどんなときですか？

◆仕事で帰りが遅く、子どもたちとふれあう時間があまりないため、家族みんなでご飯を食べている時が一番ホッとします。誕生日などのお祝い事がある時は決まって回転寿司に行きます。



尊敬する人は誰ですか？また、自分はどうな人間になりましたか？

◆小さい頃からトーマス・エジソンを尊敬しています。努力すれば夢が叶うという希望を持ってました。

◆坂本竜馬も尊敬しています。竜馬のように人との関係を大事にし、良い仕事をしていきたいということが私のベースにあります。



西蒲区ビジョンまちづくり計画を進めるにあたって、区長として大切にしていきたいことは何ですか？

◆区民の皆さまと一緒に創り上げていくということ、大切にしています。行政が主導して基盤をつくり、区民の皆さまと一体となって実現していきたいと思っております。

◆他人事とならないように進捗状況などを区民の皆さまと実感しながら進めていくということも大切にしています。

◆インタビューを終えて

いろいろなお話を伺っている時、みんなの笑い声が絶えませんでした。人と人との横の繋がりを大切に仕事していきたいと終始笑顔で語って下さいました。人の心を打つ西蒲区の行政をしていただきたいと思っております。



総務部会 子どもたちの発想を通じて魅力発信

総務部会では、西蒲区の豊かな自然をより一層区内外に発信するため、角田地区コミュニティ協議会主催の「海上すもう大会」と協働し、「角田岬灯台からの流しソーメン」を実施しました。「灯台から流しソーメンをする」というアイデアは区内の小学生によるもので、当日は区内外から多くの参加がありました。



保健福祉部会 区内の人口減少に歯止めを

保健福祉部会では、人口減少対策の一環として結婚促進を図るため、「移住モデル地区」に指定された越前浜地区などを舞台に男女の出会いを創出する婚活イベントを開催したほか、成婚などに関する追跡調査を実施しました。また、様々な観点から人口減少の原因調査を行い、課題解決に繋がるように報告書を作成しました。



まちづくり・産業部会 写真撮影で魅力の発見を

まちづくり・産業部会では、区内外へ西蒲区の魅力PRすることを目的に、西蒲区内5地区ならではの魅力を写真に撮影し、応募いただく「HOT! Nishikan 四季彩国フォトラリー」を実施しました。



フォトラリー

～西蒲区賞受賞作品～

西蒲区賞…
各地区1名ずつ、最も地区の魅力を表現された方が受賞



『笑アートでワ～ニッコリ』
西蒲区 向井 和代さん



『乙女のチャレンジ』
中央区 太田 誠二さん



『豊作の木』
中央区 大野 忠さん



『タイムスリップ』
中央区 阿部 麻由美さん



『名横綱 羽黒山』
西蒲区 後藤 秀信さん

12/25

第2回区教育ミーティング

テーマ：「地域と学校の連携による教育のいっそうの推進に必要なことは何か」

参加者は、西蒲区担当教育委員、新潟市教育行政担当者、区小学校長・中学校長代表者、西蒲区教育支援担当者、区役所代表者の計一五名と、区自治協議会委員一五名の、全員で四〇名でした。当日のテーマに対して、西蒲区における「地域と学校パートナーシップ事業」について新潟市地域教育推進課長と区小学校長・中学校長代表の方々から情報提供がありました。その後、区自治協議会委員一五名が五つのグループに分かれて意見交換を行いました。以下、その概要をグループ別でまとめました。(〇マークは地域人材に関する意見です)



第1グループ

- 年齢的に子どもたちに近い若い人から関わってもらいたい。声をかけ続けて若い人を掘り起こす。
- 登下校時の見守りで、下校時も人数を増やしたい。
- 地域に愛着を持ってもらえるような活動をするれば人材もそうではないか。
- 学校から地域への発信をより活発にして欲しい。
- 活動後の子どもたちの感想やお礼の手紙は、地域の方も喜ぶし関心を高めるのに繋がることになる。



第3グループ

- 保護者の参加は、仕事があると難しい。
- 学校登山など、体力的に参加が難しいものもある。
- 学校からの要請に応じて、「人材リスト」のようなものをコミ協などの協力の下で作成したらどうか。
- 子どもたちによる祭りなどの参加は、部活や習い事のない子どもたちを中心に声をかけをし

割を大きく担っている。地域教育コーディネーターの取り組みと地域の理解と支援のたまもの。学校が元気に、地域が元気に、そして子どもが元気に、という教育の狙いが見える。住民同士の交流も広がっていく。一方、多忙な教職員の関わり難しさなどの課題もある。そのためにも、住民の学校ボランティアは共通理解の中で活動の場が存在する。無償でよい。先生方からお声がけなどいただければ、それで十分である。

「誰かが何とかしてくれるだろう」と他人任せにしているようなところがある。自分の家族が学校に通っていると積極的に関わろうとするが、そうでないと学校との繋がりが感じづらくなり、遠慮気味になる。今の学校は防犯上、施錠が原則。気軽に立ち寄れない場所になっている。情報が困っていることなどについて、地域との情報共有が不足しているのではないかと、学校がコミ協に参加するなどして、学校と地域が密接に連携できるようにしてはどうか。以上の意見は各グループで出されたものであり、直後の全体会で発表されました。懇談の終わりに、伊藤、田中両教育委員から講評していただき、西蒲区の教育推進に勇気をもらいました。区自治協議会会長の終わりの挨拶をもって、予定時間を超えて第2回西蒲区教育ミーティングは終了しました。

第2グループ

- 各学校の特色ある取り組みは、地域がその役

